

高松市生涯学習センター 生涯学習推進事業（学習成果発表の場事業）

「南京玉すだれ講座～日本の伝統芸能に触れよう」を開催しました。

令和元年11月2日、12月7日、令和2年1月11日の3回にわたり、八房流南京玉すだれ師範の八房微乃香（やつふさ ほのか）さんを講師迎え、「南京玉すだれ講座～日本の伝統芸能に触れよう」を開催しました。南京玉すだれの講座は、まなびCANでは初めてです。最近、「南京玉すだれ」がメディア等に出ることが以前より少なくなっているため、受講者が何人集まるか分かりませんでした。しかし、予定していた人数の申込がありました。受講者の半数ほどは初めて玉すだれに触れた方でした。玉すだれが意外と重いことが、印象的であったそうです。扱いに慣れるまでは腕や上半身に負担がかかりますが、でも「やって楽しい、見て楽しい」のが玉すだれの基本であるので、楽しく習っていきましょう、というのが講師の第一声でした。



56本の竹で作られた「南京玉すだれ」の芸は、中国ではなく日本生まれの芸能で、どのようにして出来たのかは、文献等が少ないため、不明のようです。「玉」は「かわいい」を表し（赤ちゃんを形容するときに確かに「玉のような」と言います。）、「小さなかわいいすだれ」が「玉すだれ」の意味だそうです。



玉すだれには表裏があり、観客に見える側をきれいにさせるため、糸の結び目が演者側にくるように持つようにする、という基本から講座は始まりました。「釣り竿」「後光」「万国旗」などのいろいろな型を模す演技ができるように指導されました。

受講者は慣れない中、苦労しながらも楽しく習得されていきました。

3回目には、八房流の玉すだれを学ばれている方々による模範演技が行われました。さすがによく練習されているようで、南京玉すだれの特徴のある口上に乗せて楽しく軽快に演じられていました。拍手喝采でした。ありがとうございました。その後に受講者が、3回を通して習った9つの型を演じ終了しました。今後も継続したい、との感想が多く聞かれました。

